

【登山者と山、登山者と山岳会
に関するアンケート調査】

2018 年 11 月 24 日
日本勤労者山岳連盟

【調査概要】

■目的…登山者と山、山岳会（山岳団体）の関わりの現状を把握し、今後のあり方、特に若年層と山、山岳会のあり方について考えるための基礎データの収集。

■調査期間…2018 年 10 月 1 日～10 月 31 日

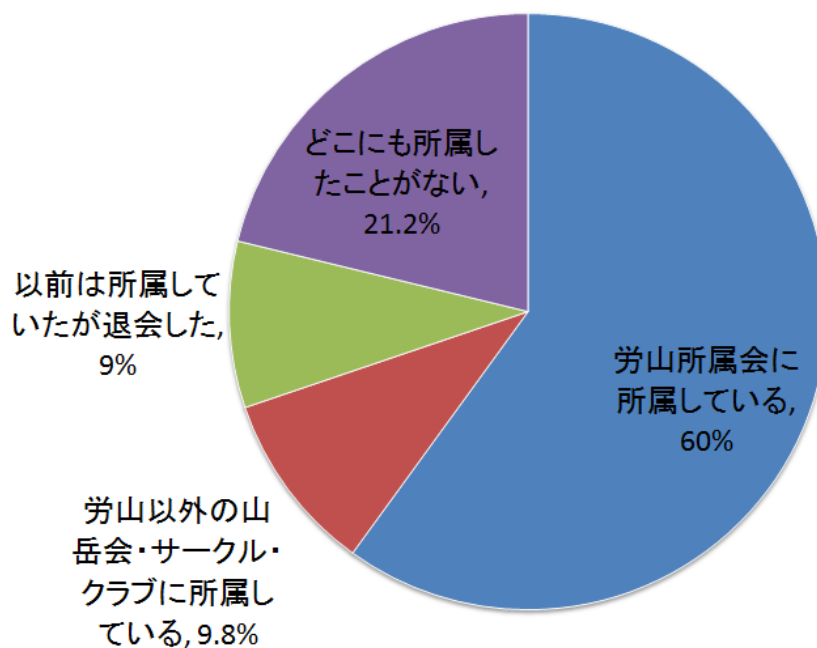
■調査方法…google フォームを用いたインターネット調査

■調査対象…全世代の登山者

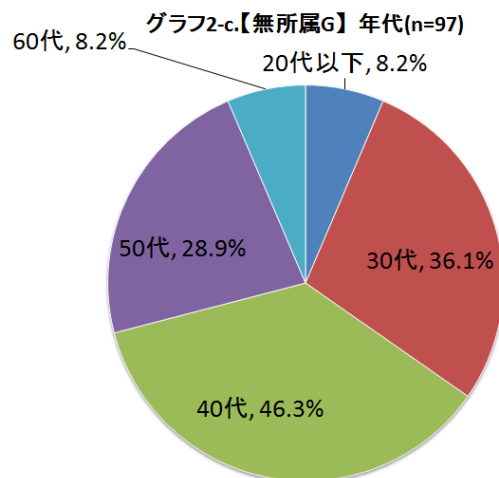
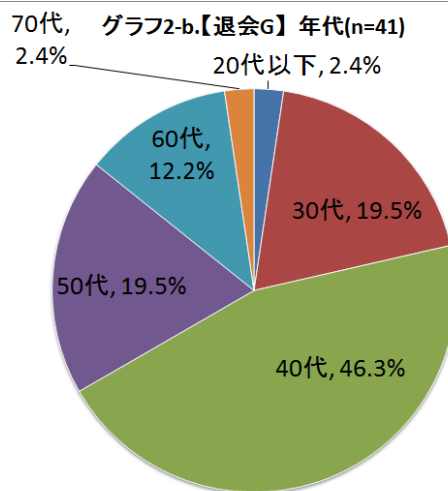
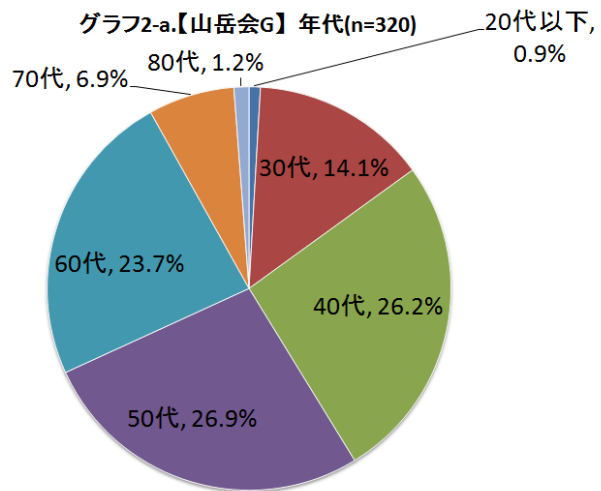
■回答（458 件）…「山岳会に所属しているグループ」（山岳会 G・320 件）、「以前は所属していたが退会したグループ」（退会 G・41 件）、「どこにも所属したことがないグループ」（無所属 G・97 件）ごとに質問を設定し、各グループの現状を把握した。

【Q1. 現在、山岳会に所属していますか】

グラフ1. 【全体】登山者の所属(n=458)

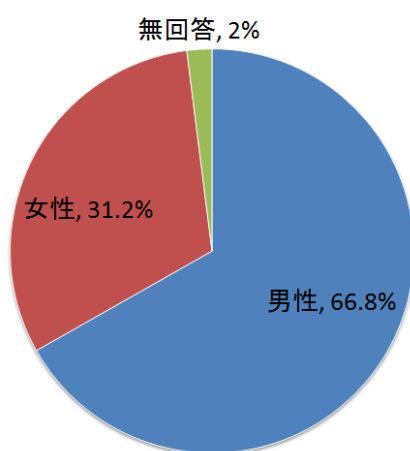


【Q2. 年代を教えてください】

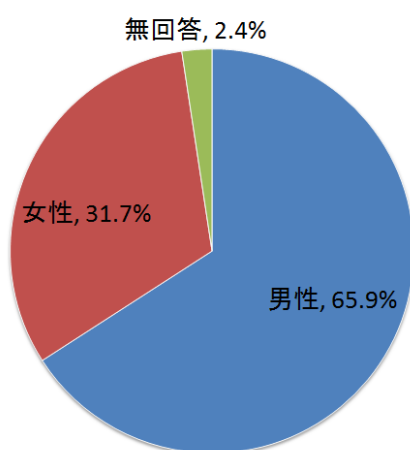


【Q3. 性別を教えてください】

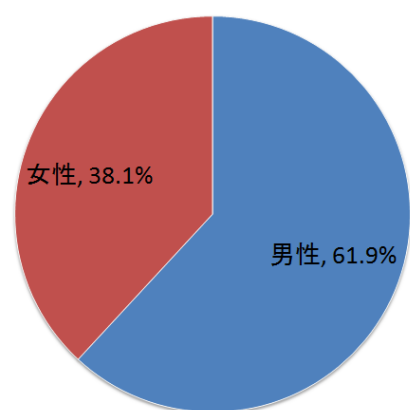
グラフ3-a.【山岳会G】性別(n=320)



グラフ3-b.【退会G】性別(n=41)

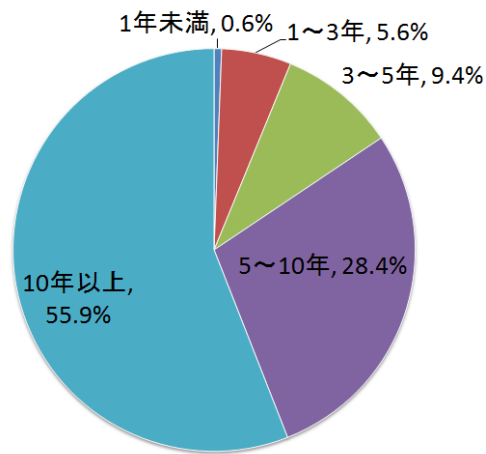


グラフ3-c.【無所属G】性別(n=97)

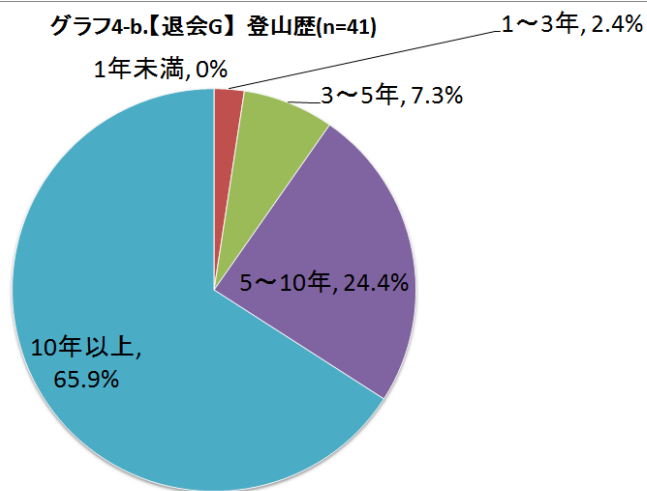


【Q4. 登山歴を教えてください】

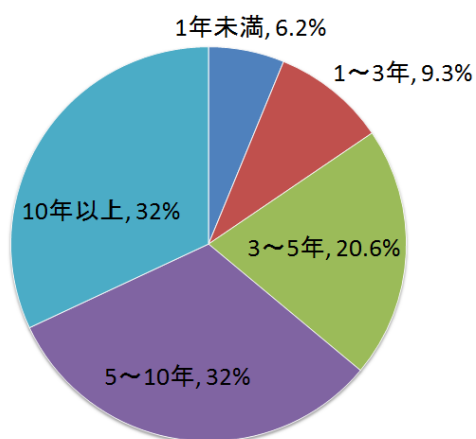
グラフ4-a.【山岳会G】 登山歴(n=320)



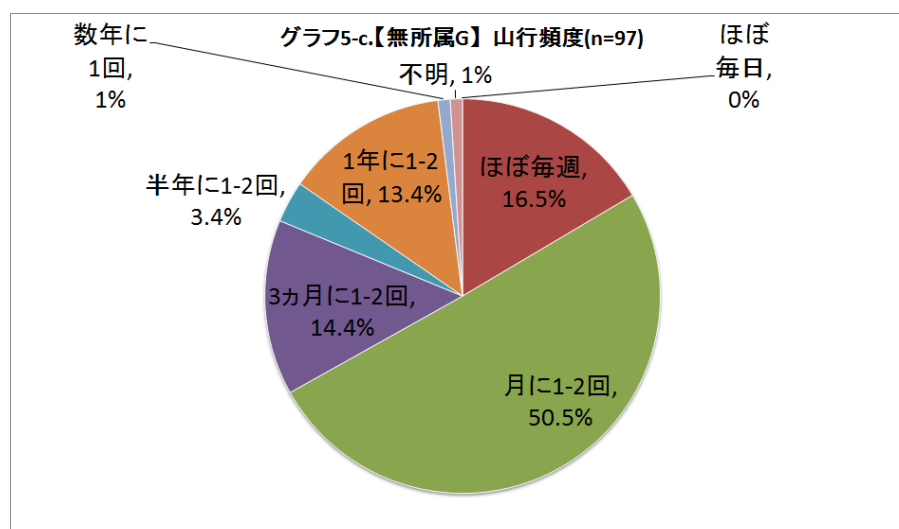
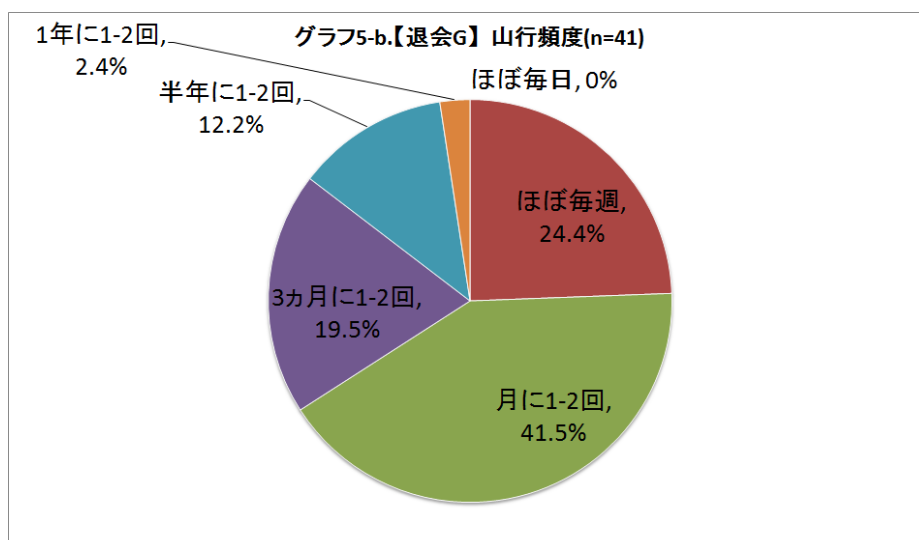
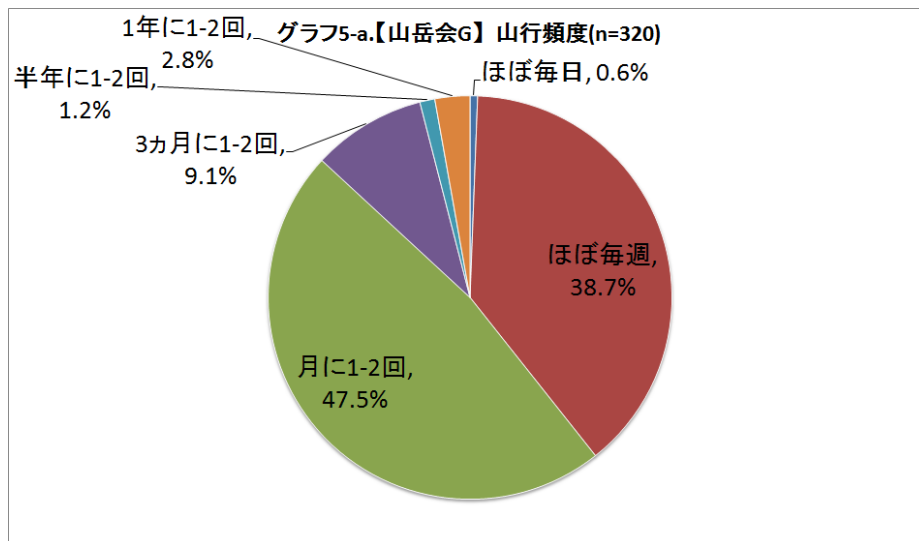
グラフ4-b.【退会G】 登山歴(n=41)



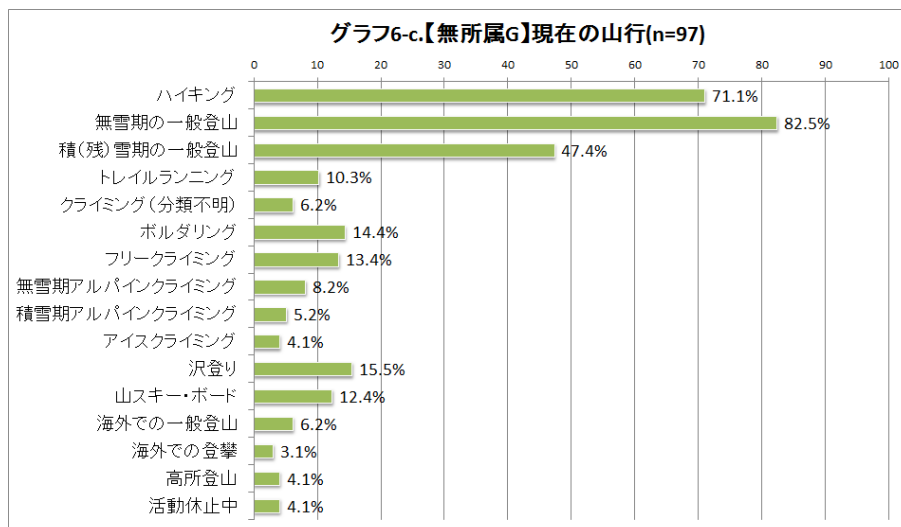
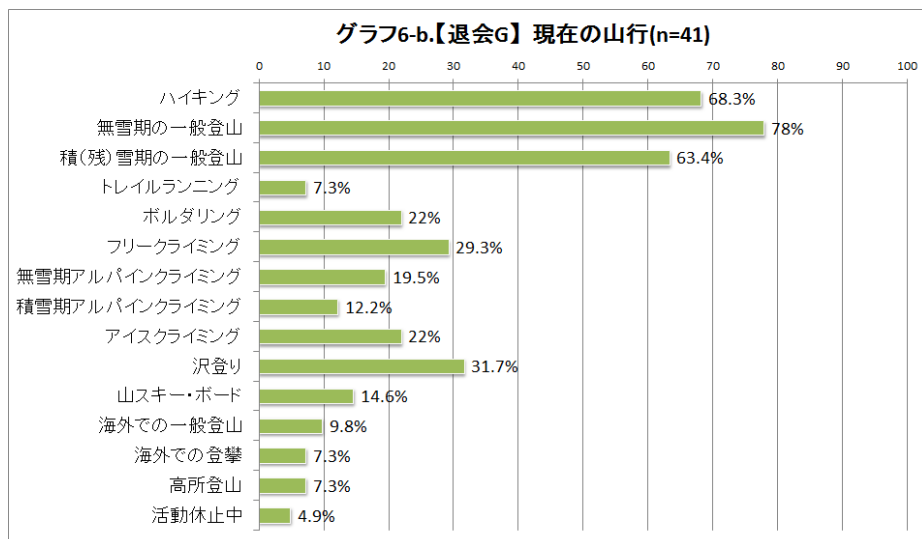
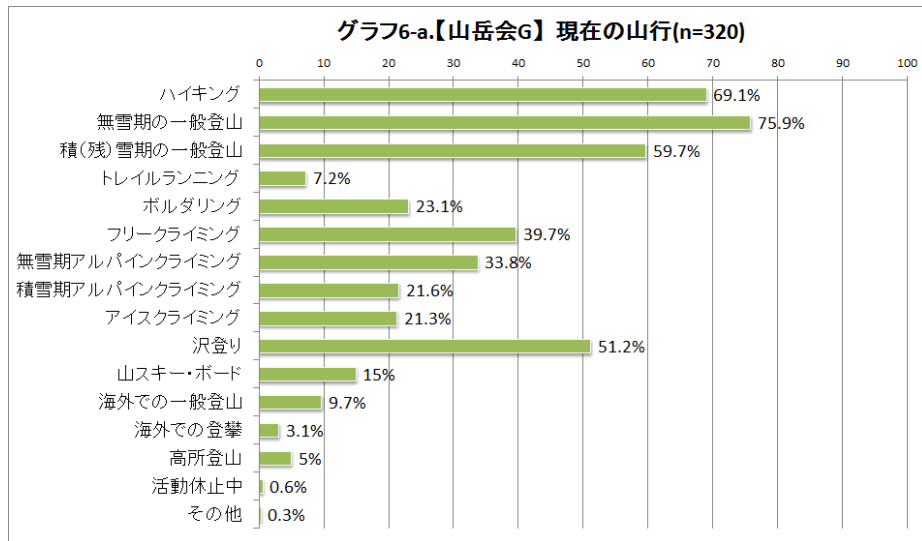
グラフ4-c.【無所属G】 登山歴(n=97)



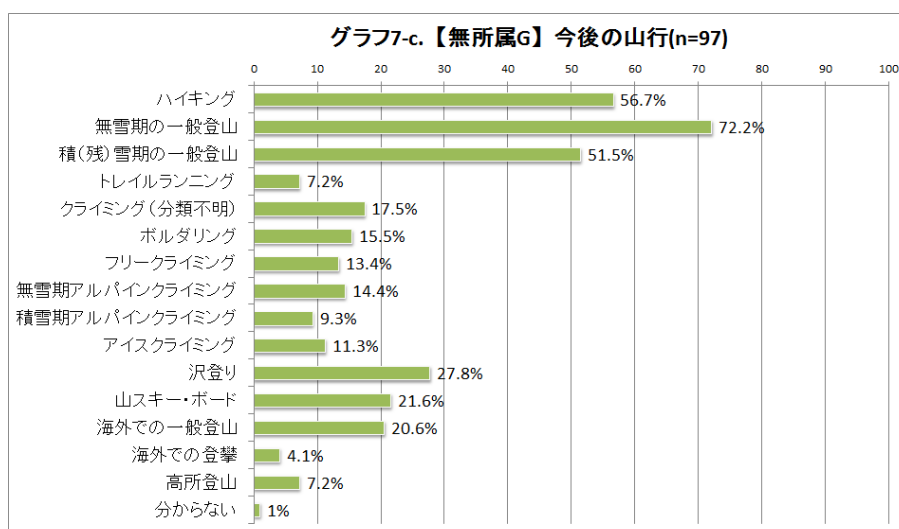
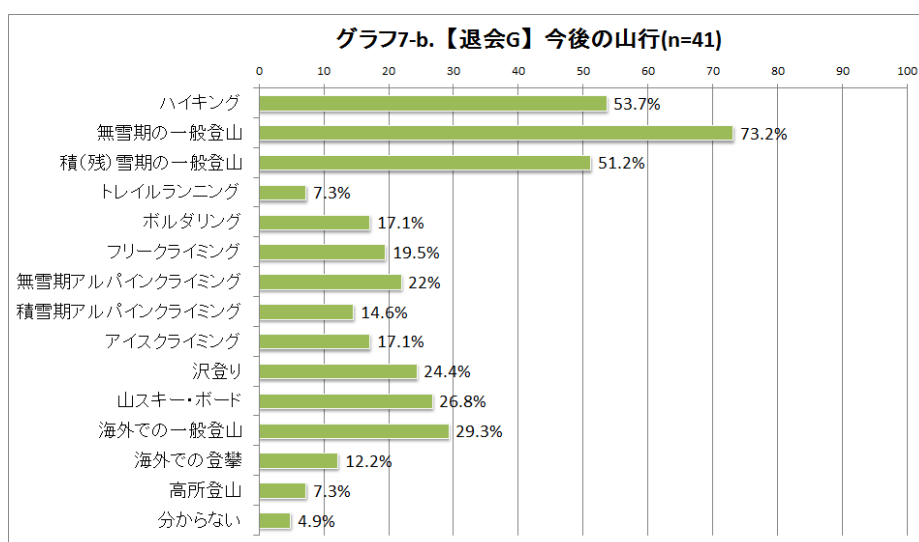
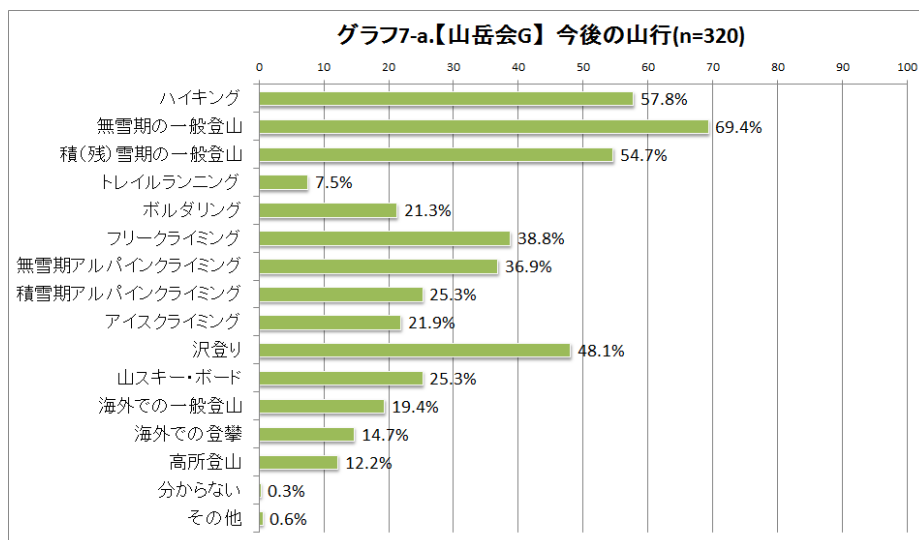
【Q5. 山行頻度を教えてください】



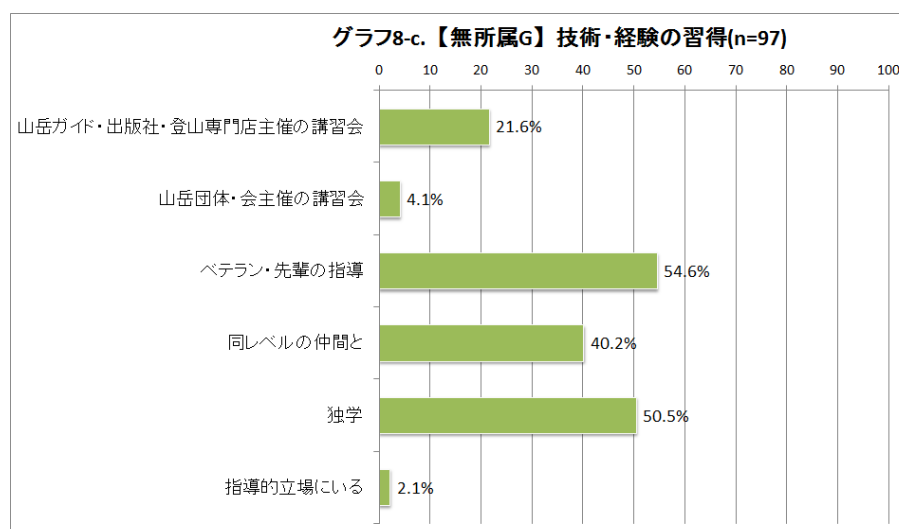
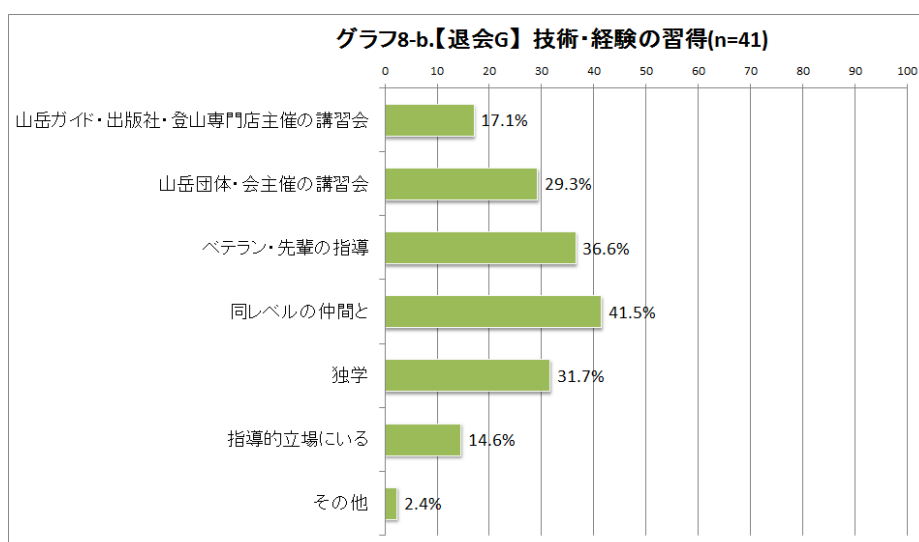
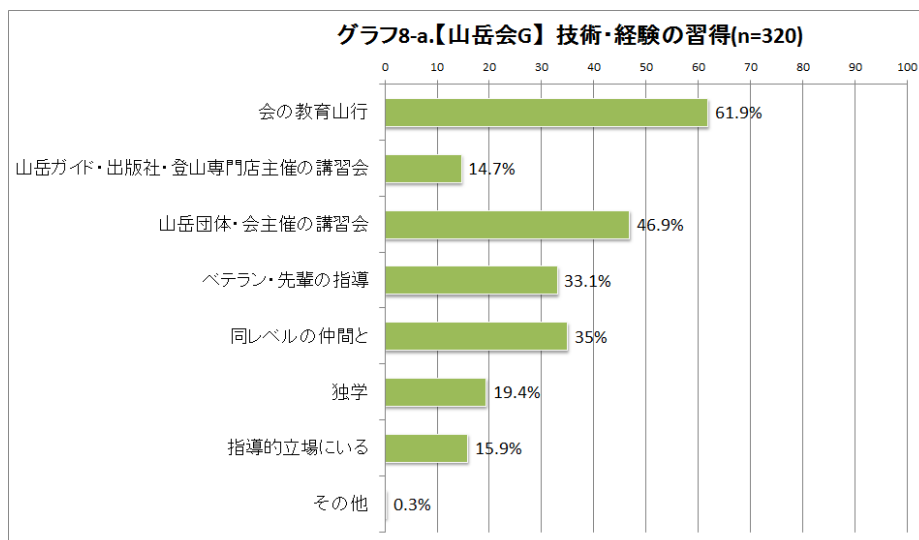
【Q6. 日頃、どのような山行を楽しんでいますか（複数回答）】



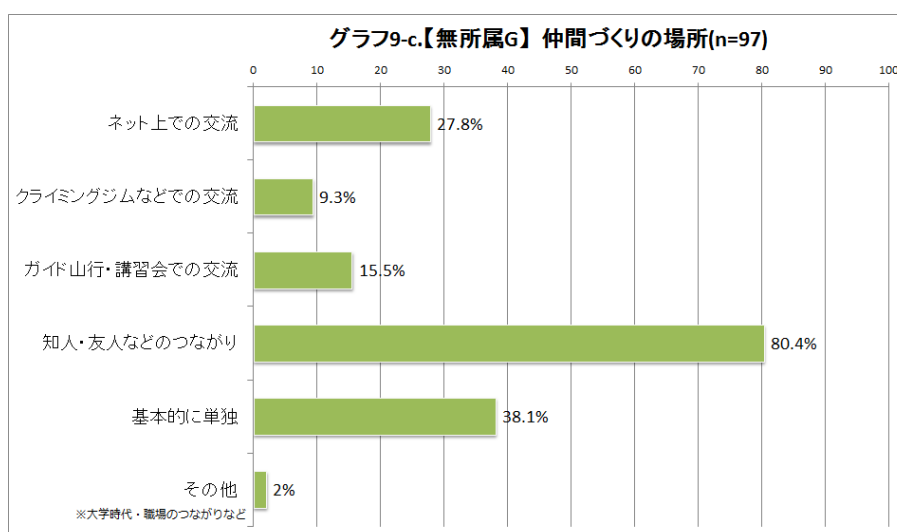
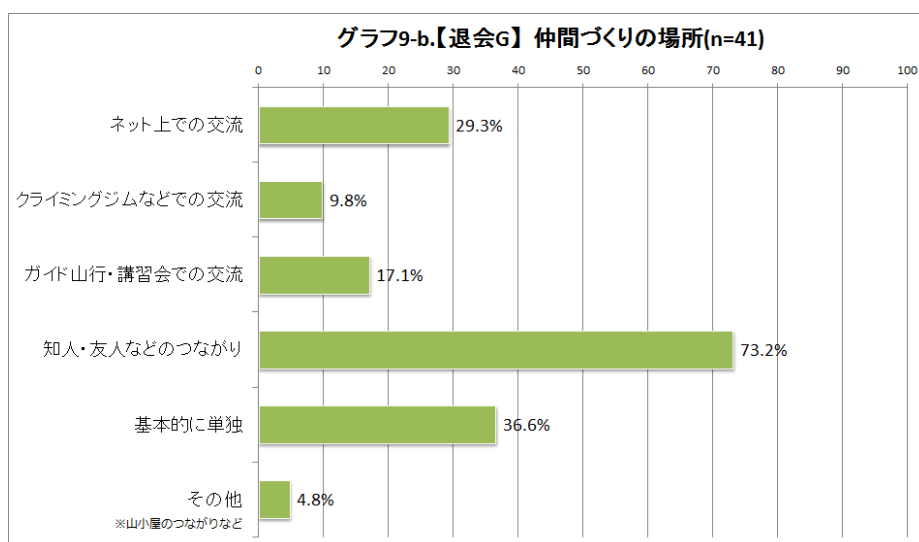
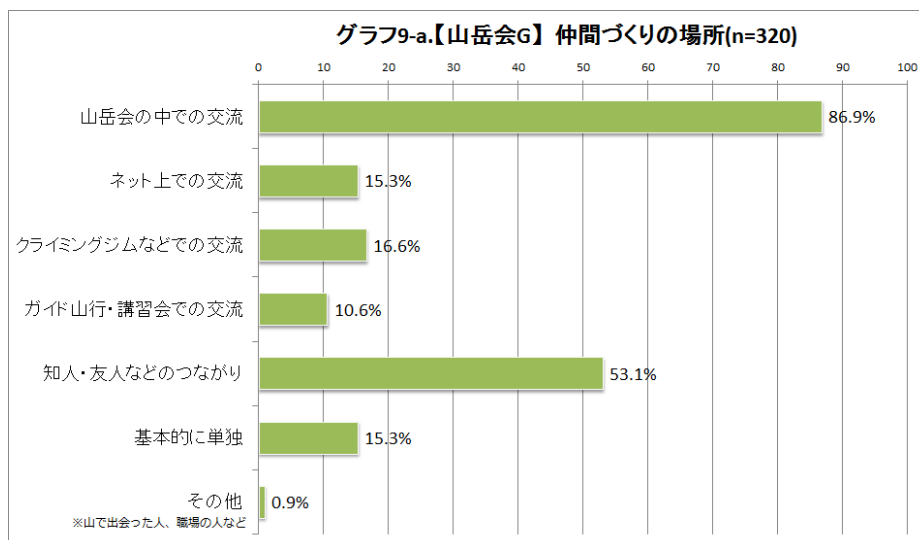
【Q7. これからどのような山行をやっていきたいと思いますか（複数回答）】



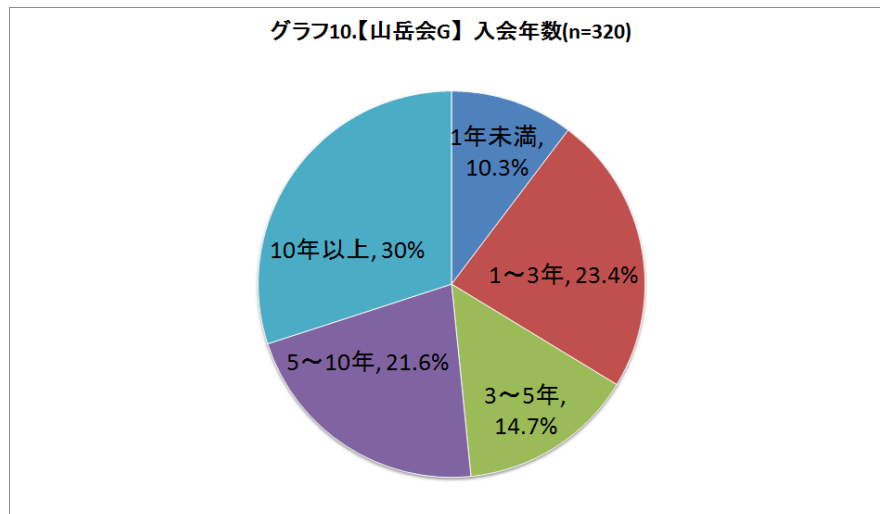
【Q8. どのように技術・経験を習得していますか（複数回答）】



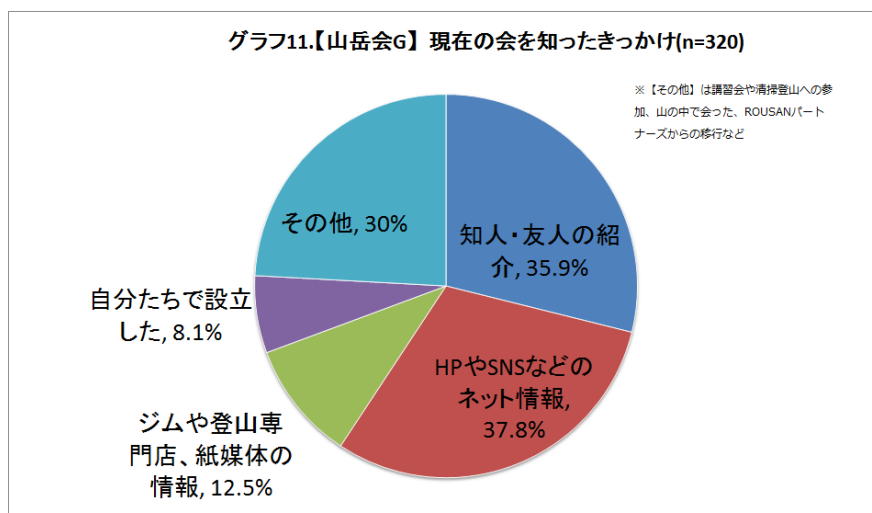
【Q9. どのように仲間づくりをしていますか（複数回答）】



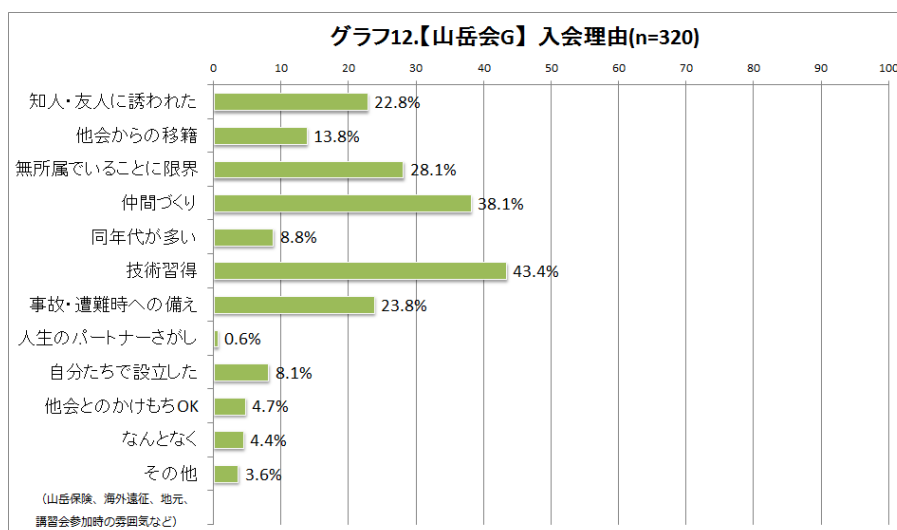
〈山岳会グループへの質問〉【Q10. 現在の会に入会して何年目ですか】



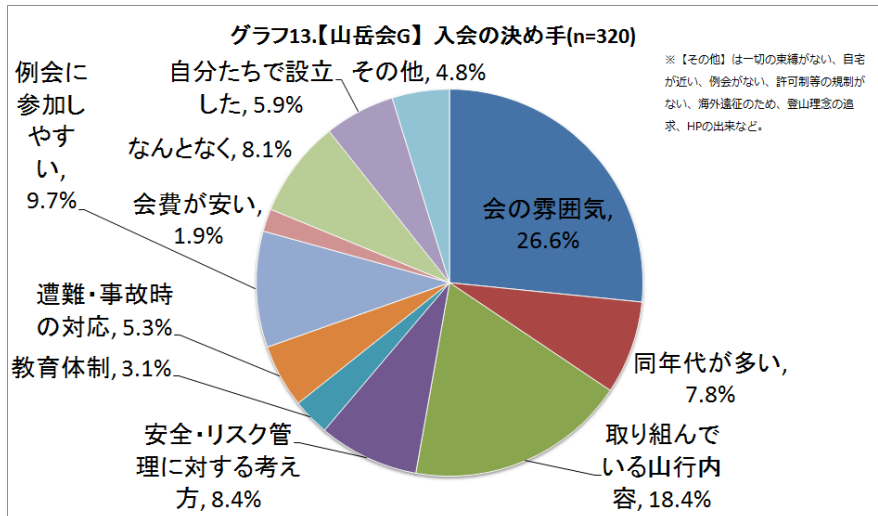
【Q11. 現在の会を知ったきっかけは何ですか】



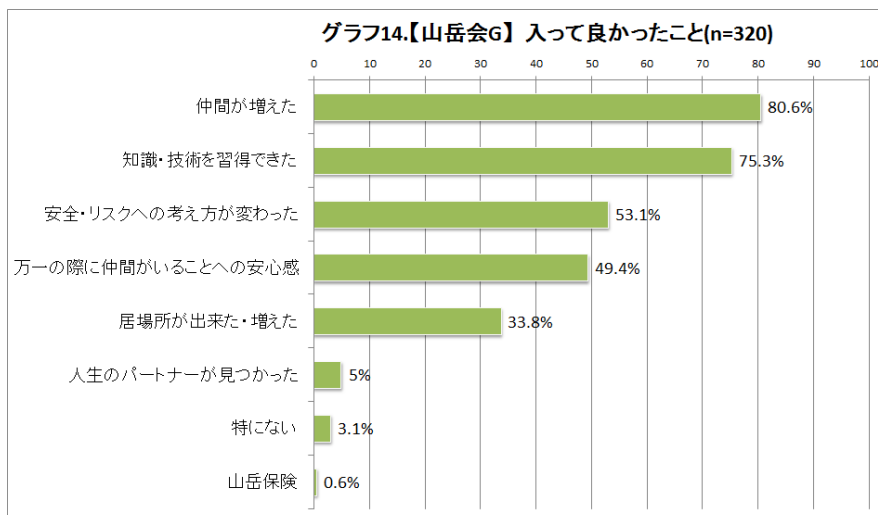
【Q12. 現在の会に入会した理由を教えてください（複数回答）】



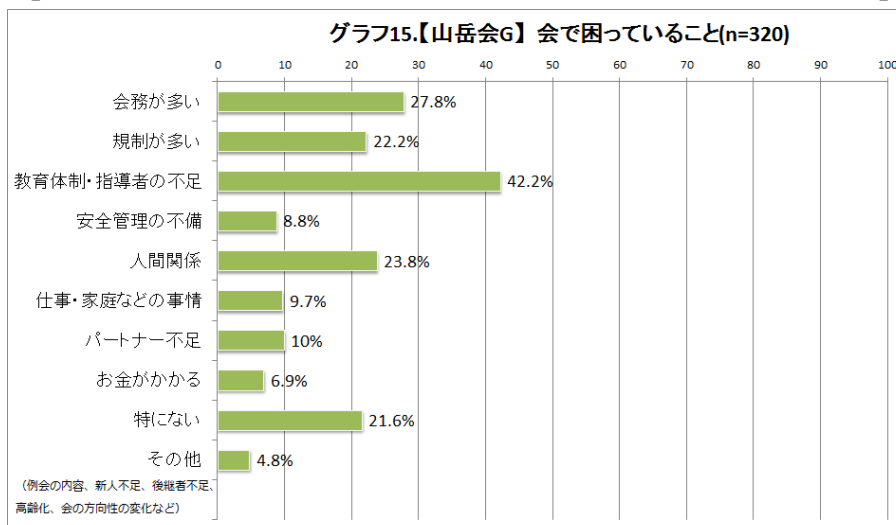
【Q13. 入会の一番の決め手は何ですか】



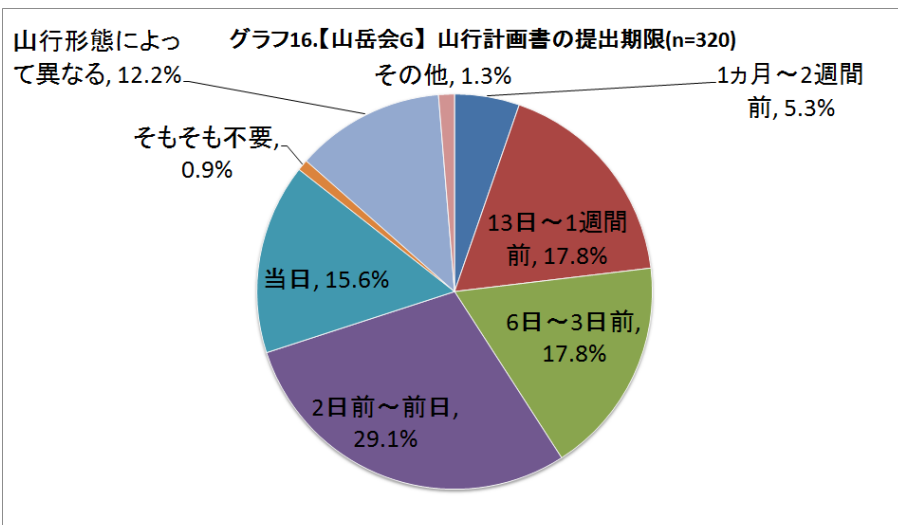
【Q14. 山岳会に入って良かったことを教えてください（複数回答）】



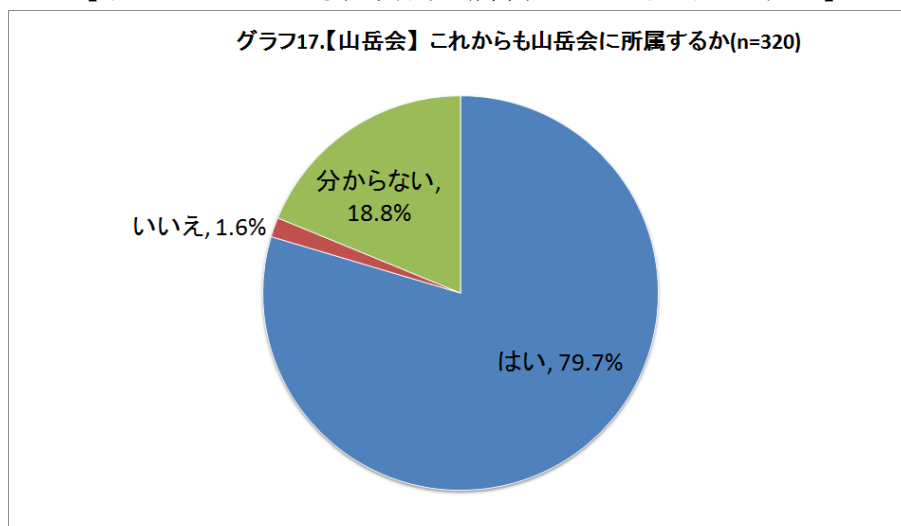
【Q15. 山岳会で困っていることを教えてください（複数回答）】



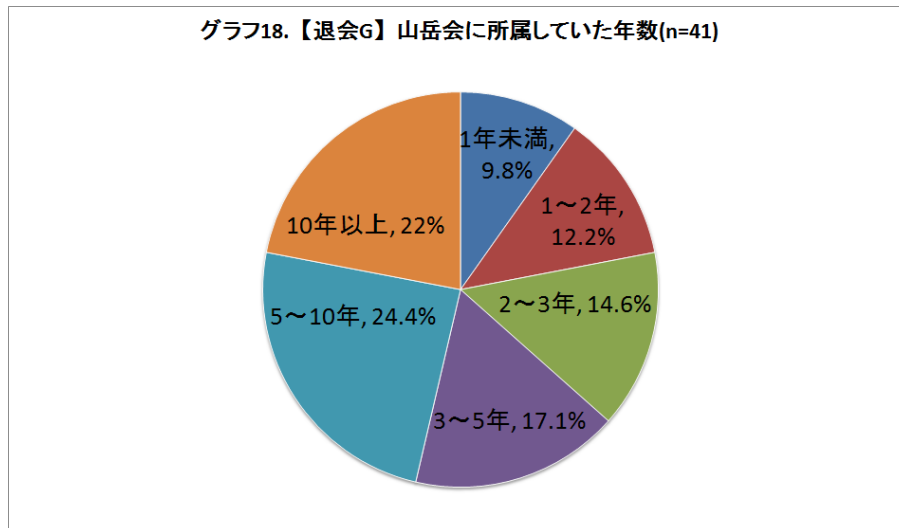
【Q16. 山行計画書の提出期限はいつまでですか】



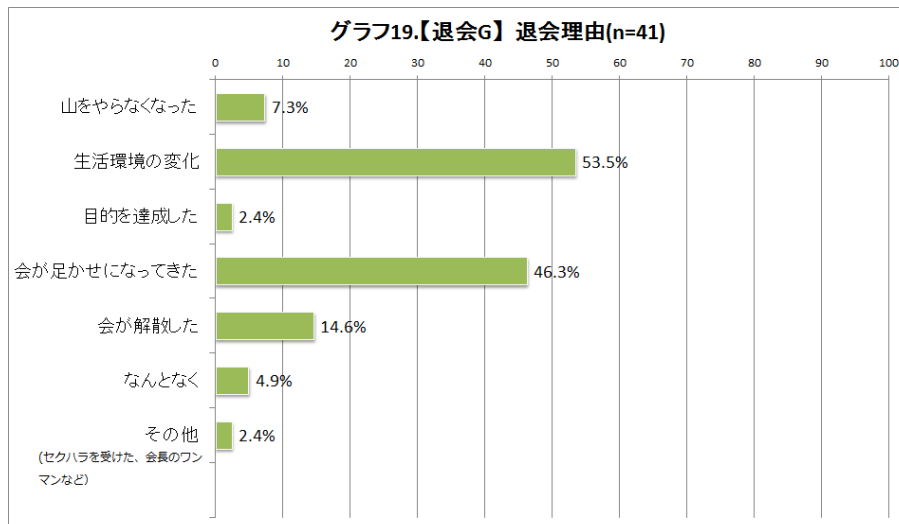
【Q17. これからも山岳会に所属していく予定ですか】



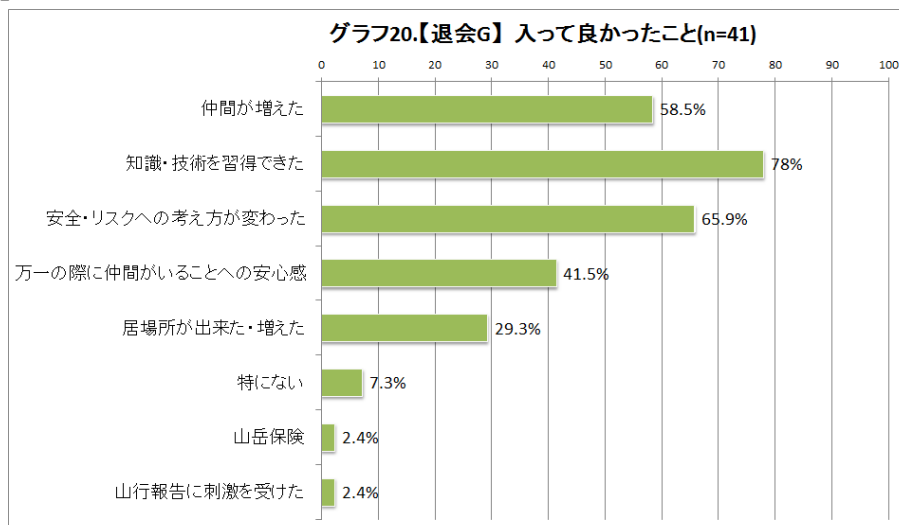
〈退会グループへの質問〉【Q18. どれくらいの期間、会に所属していましたか】



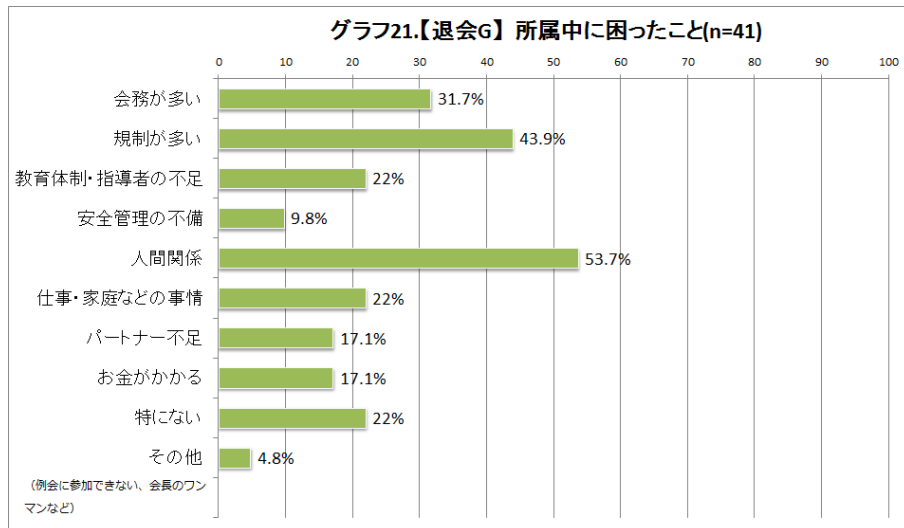
【Q19. 退会した理由を教えてください（複数回答）】



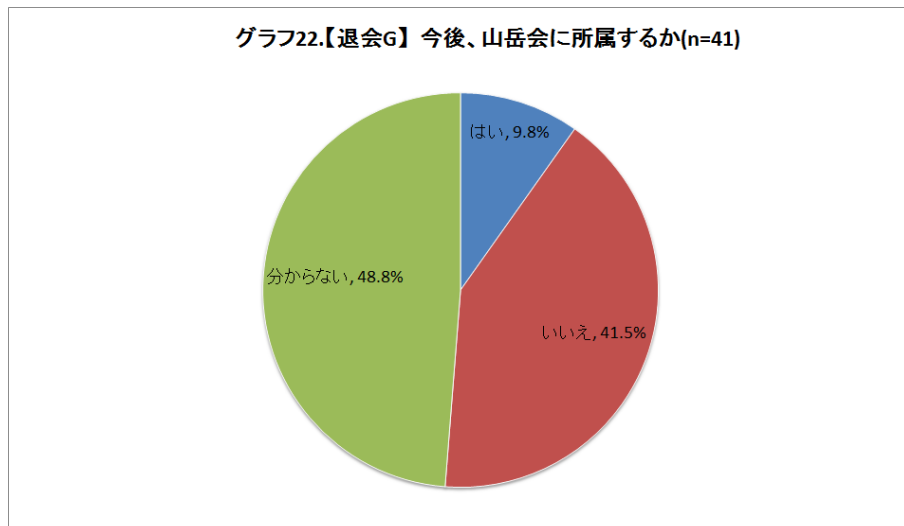
【Q20. 山岳会に入って良かったことを教えてください（複数回答）】



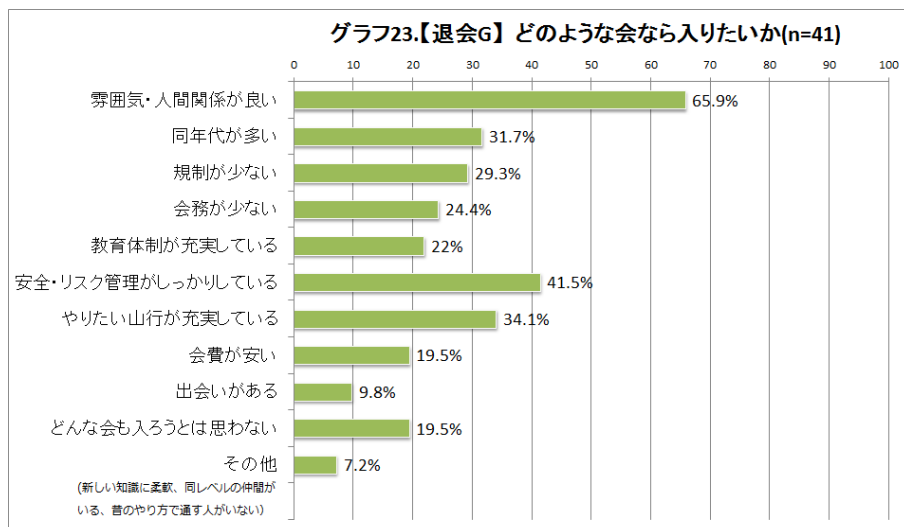
【Q21. 所属中に困ったことを教えてください（複数回答）】



【Q22. 今後、山岳会に入会する予定はありますか】

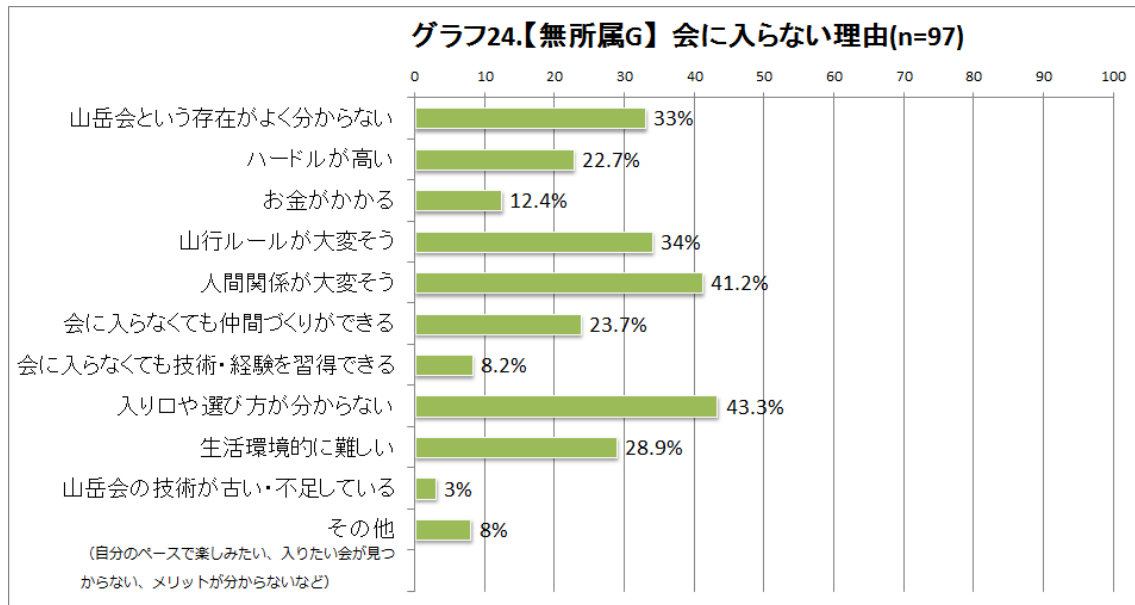


【Q23. どのような山岳会なら入会したいと思いますか（複数回答）】

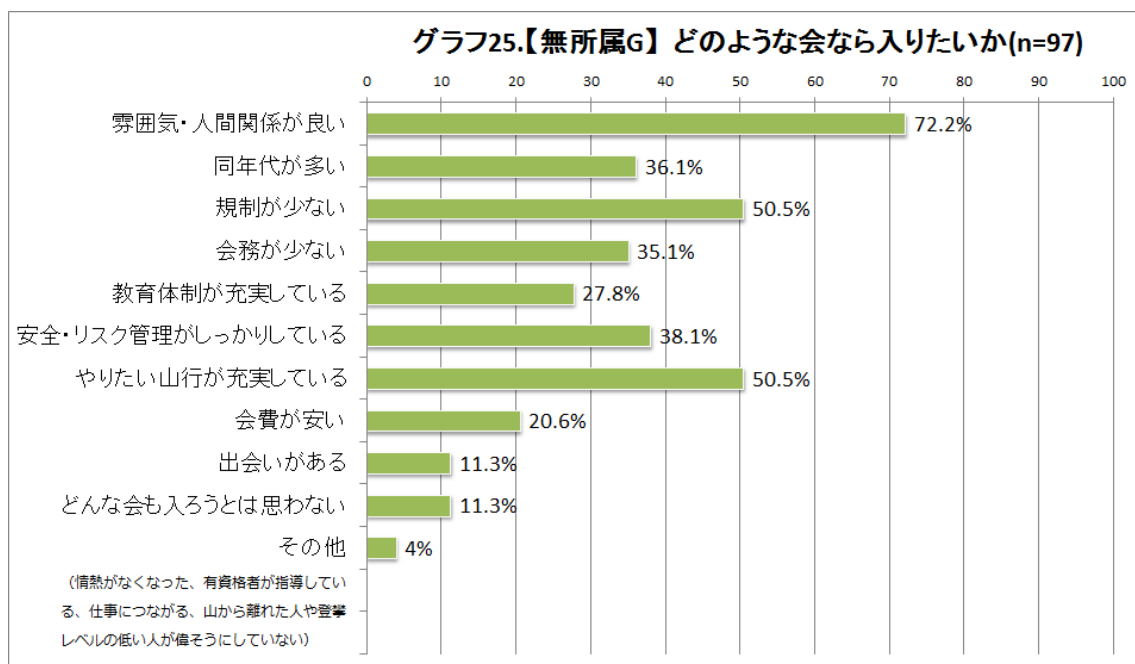


〈無所属グループへの質問〉

【Q24. 山岳会に入らない理由を教えてください（複数回答）】



【Q25. どのような山岳会なら入会したいと思いますか（複数回答）】



【Q26. その他、山岳団体・会に求めることがあれば（自由記述）】

【山岳会グループの自由意見】

■以前所属していた会は、しがらみや会長の気分によつての采配が大きく、精神的に疲れました。（不気分によつて、「他の会の人とは行くな」や、計画書の無意味な早期提出等）。(30 代女性)

■世相や山をやる人の意識が変わっている中で、山岳会は立ち遅れている。今こそ自己変革しなければ近いうちに消滅してしまうだろう。(50 代男性)

■会山行などの在り方が若者に合ったものにならなくていいなと思う。(50 代女性)

■今の時代にあった山岳会の運営。(40 代女性)

■山岳会には高齢者が多く若者がいない会も増えていると感じています。このままだと会自体が存続出来ない状態になるので、対策が必要と考えます。(30 代男性)

■自然保護意識が足りない。前向きなモチベーションを持つ人が少ない。(60 代男性)

■多様性と安全知識の共有。厳しい会、緩い会、繋がる会、相互扶助のみの会、色々な目的の会があるべき。その状況下でも安全に関する知識、ケーススタディが共有されるような仕組み(理想的には山岳会に所属していない人にも広く共有されるべき)。山行許可制など制限を作つて安全を担保する仕組みではなく、積極的に情報を出して安全に関する平均値を上げていくような取り組みが良いと思う。(30 代男性)

■若者の育成と指導者の充実が急務だと思います。最新の技術とギアに対する知識の向上。また昨今問題になっている高齢者に対する啓発活動（昔やっていたから大丈夫で遭難とか）や、体力測定会などがあると良いかと思います。(50 代男性)

■会では単独ではできない登山をしたい。(30 代女性)

■私自身、山岳会のメンバーと登りに行く機会はほとんどありません。所属している会がハイキング主体でクライマーがいないというのが現状です。ではなぜその会に所属しているか？やはりその会のメンバーが好きなのでしょう。今は個々の趣向が多岐にわたり、会単位での山行ではなく会を超えたメンバーでの活動も多くなるのではないのかなと感じます。(50 代男性)

■もともとは現在居住地の労山加盟の山の会に入会を希望していたが、知り合いの薦めで現在の山の会に入会し、現在、リーダー兼会報担当という立場で活動中。他の山の会でも同様と思うが、高齢化が進み、平均年齢 70 歳で推移している。参加者も低山・里山に集中し、中高山の参加は減少。ヤマケイ等に募集をしているが、反応はいま一歩。 また高齢登山故に大事には至らないまでも事故

も頻発している現状があり、若手の募集を継続しながら、今後は山登りの基本的な部分の講習を増やし、山行時の事故防止の対策としていきたいと思っています。(60代男性)

■年に一回位は例会や親睦山行があっても良いと思います。(50代男性)

■自分と同じ趣向の登山が出来る仲間がいるとありがたい。(60代男性)

■安全教育をしっかり実践すること。基本の7つ——①計画②トレーニング論③ナビゲーション④気象⑤リスク管理⑥危急時対応⑦ファーストエイドを網羅して実践できているところはあるのか？今、山岳会が崩壊していませんか、やるべきことをきちっとやっている山岳会が無くなって来ています。山岳会の魅力も無くなって来ています。烏合の衆では魅力がありません。(60代男性)

■当日に計画書と全く違った山に行って雨のため山を変え計画変更届けもしないで、下山しましたと報告しても、何も咎めない。もしA山で事故が起こり搜索していてもB山に行っていて知らないなんて事が起こりえる。計画書の重み、重要度を会員に上層部が徹底指導しなければ何のための計画書か分からない。

(80代以上男性)

■神奈川労山のリーダー学校は参加したことはありませんが、経験の豊富な講師の方々が何人もあり、素晴らしいと思っております。私は独学でロープワークなどを勉強してなんとかやっておりますが、もし初心者の方にリーダー学校で学ぶことができたなら、何年もかけて失敗を重ねながら身につけたことが、一年で身についたのかも、などと思ったりします。(リーダー学校で教わったことがないので実際は分かりませんが…)。何かと大変なことも多いと思いますが、山を始めて頑張ろうという人にとっては心強い存在だと思いますので。今後のポジティブな発展をお祈りしています。(30代男性)

■山岳会の団体での講習会が増えるとありがたい。(40代男性)

■もっとクリーンハイクに力を入れてほしい。(40代女性)

■安全登山のための知識や技術講習の実施、そのための講師派遣等。(60代女性)

■会員の年齢が高齢になり会の運営自体が困難になってきている。他の会はどのような運営をしているか知りたい。若い会員を入会させるが、会の役員等を頼むとすぐ退会します。今はネットの時代で若者はSNS（ヤママップ、ヤマレコ、フェイスブック）のグループを組み山行するのが多い。私から見るとしっかりしたリーダーがいない山行で、危ないと思いますが、気の合う人たち同士の山行が楽しいみたいです。昔ながらの規則のある山岳会は、今の時代にそぐわないと思います。入会した会員に聞くと、敷居が高いとか山行の役（リーダー、会計、記録、感想等）があるから嫌だと言う方が多い。山岳会自体のあり方を考え直す時期に来ていると思います。(60代男性)

■会や、県連盟の運営に当たる人達の若返り。(70代男性)

■昭和に出来た山岳会、山岳団体の活動目的は表向き①技術知識の開発と会員への教育、②遭難時の捜索救助体制の保証、山仲間の確保であったように思う。ところが平成になって登山の環境は最近大きく変わってきた。特に遭難時の捜索救助体制の進歩は目覚ましく①救助要請は携帯電話（スマホ）で、②捜索はココヘリ、③救出はヘリとなって来ている。また地図読み（読図）も GPS（スマホのアプリを含む）を活用すればほぼ道迷いは無い。さらに技術もネットで検索すれば良否を問わず、山ほどの知識が提供され選り取り見取りである。山仲間の確保も SNS などですぐに好みの似た人を集めることが出来る。こういう中で旧来の山岳会や団体に存在意義はあるのだろうか？ しかしながら遭難は年間で死者行方不明合わせて 300 人を下らない状況が続いているのも現状だ。一般の人の登山は人生や社会参加のための潤い（趣味・リクリエーション）だと思っているが、それにしても危険が大きすぎると言わざるを得ない。山登りをしない人の中には「登山なんか無い方が良い」と言い切る人もいる。そこに山岳会や団体の活動意義があるのではないだろうか？ つまり昔の活動目的は現在も未来も必要不可欠なのだが、やり方やそのイメージがいけない。今風に変える必要がある。具体的には「安全登山を普及するボランティア団体」になることだ。それには今の会・団体を一旦解散すること、そして有志がボランティアを開始すること、もしそれが必要だと認められれば同志が集まってくるでしょうし、同志が集まらなければそれは「社会がその活動を必要としていない」ことなのです。最近多くのスポーツ団体（柔道、レスリング、相撲、アメフト、体操等々）が社会から「今のままならいらないよ！」と変革を迫られており、登山界も他人事でないように思います。それはさておき、とにかく遭難を減らす活動を山岳会・団体に期待します。アンケート結果を公表するだけでなく、労山としてこのアンケートから何を学び、どう自分を変えたかを公表いただきたくお願いいたします。（70 代男性）

■ヒマラヤ等の極地以外での探検性、地域研究性が欲しい。（30 代男性）

■楽しくてためになるミーティングがもっと増えればいいなあ。（50 代男性）

■会所属の魅力メリットは理解できるが、連盟に所属しているメリットを会員に実感してもらうものが少ない。会費 850 円中 300 円の連盟費を説明できない。（70 代男性）

■新しいことを挑戦し続けること。（40 代男性）

■労山ならではの特性が失われつつあり、普通の社会人山岳会化しようとしている。（70 代男性）

■全国連盟への負担金（団体・個人会員あたりともに）をこれ以上高くしてほしくない。単会として会員は増えことは望めないで、会の運営が厳しい。しかし、会費の値上げは、会員の減少となることが推測されるため。（60 代）

- 新しいメンバーを増やす仕組みが必要と感じています。(50代男性)
- まず集まりましょう。例会では言いたいことをワイワイガヤガヤ話しましょう。会員の行きたい山に、その望みに応える山の会になりましょう。腰や膝を痛めて山に登れない会員にも配慮して山行を工夫しましょう。未組織の登山愛好者に声を掛けて会員にお誘いしましょう。どなたも居場所を求めています。勤労者山岳会こそ最適な居場所であることを広く宣伝しましょう。(70代男性)
- 世代交代をしてほしいけど、元々若者が少ない上に、仕事や家庭で忙しく、山行も会活動もなかなかできない。結局時間的に余裕のある高齢者が中心的役割を果たさざるを得ない。県連の搜索活動においても昔からのメンバーが中心となって活動しているが、もしそのメンバーがいなくなった後、残された若手で同じレベルの搜索活動ができるのかと考えると無理だと思う。(40代女性)
- 何かと邪魔をする年寄りがいるので、やめて欲しい。男尊女卑が激しい。時代錯誤も良いところな事を言う人たちが回すのは、会員が減るのは当たり前。良いことも悪いことも含め、話が出来る環境をつくるべき。(40代女性)
- 50代女子！山に行きたいです。(50代女性)
- 他会との交流、情報交換の場があれば。(40代男性)
- 若者の嫌がることは、辞めるべき。(50代男性)
- もう少しお手軽に山に行けるシステム作りがないと、SNSから登山を始めた人を拾えないと思う。(40代男性)
- 年間計画を立てない、海外が多いので行けない。(60代男性)
- カビのはえた旧時代の技術をさも凄いことのように自慢して、前途ある若者を騙すのをやめて欲しい。(30代男性)
- 情報発信。(40代男性)
- 労山基金に医療なしタイプの設定をして費用を押さえてほしい。ココヘリ加入者優遇措置等も考えてほしい。搜索費用が下がるはずなので。(30代男性)
- 若い会員(30歳～50歳)が少ない。毎年平均年齢が上がり、当会では66才？(60代男性)
- 継続できるように、負担を軽くする。(50代男性)
- 入会時には連れて行ってもらい登山者を自立させていくこと。また、会や仲間を大切に作る気遣いを育てていくこと。(50代男性)
- 本物の教育者による教育、DVD作成。(60代男性)
- 近場ハイキングに行く際も山行の知識は必要だと思いますので、山岳会に入って良かったです。これからもっとハイキングを楽しめる人がもっと増えるといいなと思いました。ありがとうございました。(50代女性)
- 指導者となるべき人たちの技術知識の定期的な更新が必要だと思う。自分の教わった技術を初心者へ教える教育だけでなく、会の中で指導する立場にある

人同士で集まり、世の中の新しい技術や道具について研究する機会がもっとあっていいと思う。(30代男性)

■老若男女幅広い層がいる山岳会が増えて欲しい。不安定な雇用者でも受け入れてくれる組織が出来たらいい。(60代男性)

■山岳会に入って良かったが、運営の負荷が大きすぎる。恩送りのシステムはもう機能していないのに、ボランティアで仕事並みの負荷がかかる。何もしない会員から文句だけ言われたり、会のために何かしようと努力して逆に人間関係が悪くなったりなどあると、会では、当たり障りなく目立たないのが良いとなる。広く負荷を分担するのも難しいのでボランティアをやめ、運営はある程度金銭的な見返りをつけないといけな時期に来ているのでは？また若い人たちの力が必要というわりに、年配者が多い山岳会では若い人が仕事を押し付けられるだけで、発言権がなかったり、何でも顔を合わせて飲み会で決めるとか会報の印刷で山行に行けなかったり、古い世代のコミュニケーション方法に従わなければいけなかったりする。1人1テントも批判はあるが、山岳会で大勢のテントで否応なしに酒に付き合わされるのももう飲まない世代には合わない。仕事も忙しい世代なのだから、スカイプやLINEなども活用して、会報などもデジタル化してシンプルにいかないと活動ができない。山行にしても、仕事が忙しくなったり、家庭を持つと男女ともに難しい状況はあるが、毎週山に行くのが当たり前だとか、山行のスタイルは山岳会なんだからこうあるべきとか硬直的だとなかなか続けられないと思う。雑音がとにかく多くて、山が嫌いになりかけた。講習やジムで仲間もでき、フレキシブルに山に行けるとなると、色々と硬直的な山岳会にいるメリットは薄れてきているように思う。(40代女性)

■講習会の開催。(60代男性)

■敷居が高い感じがする。(不明)

■以前入っていた山岳会は、沢やクライミングの場合は2日前までの計画提出で、仕事などで忙しいときや天候等で判断に悩んでいるときは計画の提出が2日前では難しいことがあった。また、技術を習得していないのに色々な人と山行計画していることに対してやめてほしいと言われることがあった。行っただけではいけないのであれば最初からそう言って欲しかった(例えば、初心者はこの講習を受けたら自由に参加してないなど、行って欲しくないならなりの基準を作って欲しかった)。会規則などよく分からないまま入ってしまった(ネットには記載があるが非常に見づらい)。例会の際は、年配の方がパソコンからデータを起動するまでに恐ろしい時間がかかっており、もう少し何とかしてほしいと思った。(不明)

■組織の保身的な視点で運営している団体、会が多いと感じています。山行管理も本来は安全管理目的のはずなのに、計画書を提出すれば規制を掛けられた

り、アクティビティによっては単独行禁止だったり、提出する方もプレッシャーを負うことになり、自分のパフォーマンスを発揮できなくなったり、無届山行になったりと、逆に遭難リスクも発生してしまいます。これは山行管理の視点が初心者クラスにスポットを当てているため、高度な登山スタイルを志向する人にはうざいだけです。それぞれの会員のレベル、考え方、パーソナリティに応じての対応が求められますが、初心者初級者を受け入れる会ではなかなか難しいことですね。「山行管理」という視点ではなく「山行支援」という視点に変えることが必要かと思います。また会の主体が中高齢者だけですと当然若い世代は入ってきませんし、入ったとしても次第に離れていく傾向が多いと思われます。会の構成員が高齢者ばかりで、体力不足なのに会員がほとんど問題心を持っていない、連れて行ってもらふ雰囲気が蔓延していて困っている、という若い会員からの声を他会ですが聞かれます。残念ながら高齢者中心の会や団体はいずれ多くがなくなると思います。今までの山岳団体や会を支えてきた価値基準やルールを変革していくことが必要でしょう。入りやすい会、主体性と創造性を持つ人を支援する会や団体、古い技術や考えをいつまでも引きずることなく、現在の趨勢をキャッチし取り入れている会員が中心の会、会務優先ではなく自身の夢である山行を優先することが重要だと考えます。(不明)

■事務処理などの IT 化が遅れている。属人的になってしまっている。改善の余地があることから、山の情報等の共有が図れるなど加入者へのサービス向上が期待でき、より良い団体になる可能性がある。(不明)

【退会グループの自由意見】

- 古株の会員が山にも登らず昔話で威張っているような会は遠慮したい。また、会則の改正に消極的で時代に合わない会則を変えようとしめない硬直化した組織運営を旧態依然として続けている会が見受けられる。(60 代男性)
- 会の存続のために参加しているわけではないことを明確に自覚していない。「まだ早い」というか、その段階の話も手段もなく会が決めた順番で山行くだけなら参加している意味がない。(40 代男性)
- 一度は山岳会に入った方が良いとは思いますが。いろんなリスクが分かりますから。(50 代男性)
- もう少し後人の育成に力を入れている会に入っていればまた違ったのかと思います。それは自分が良く調べなかったからかと後悔しています。(40 代男性)
- 山岳会に入る前は自由に自分のレベル・好みに合った山登りをしていました。山岳会は組織ですので、どうしても組織の都合・考え・価値観が優先されます。そこで個人個人の山への想い・情熱が埋没してしまいがちです。組織的な活動ですので、個人のレベル・嗜好に合った成長を求めるのも難しいのが現状であると思います。面倒見の良い先輩・マッチング仲間が見つかるかにかかっている

とっていいでしょう。組織が維持できるかについて個人レベルでは、貢献＜誘因(組織論)かと思います。山岳会が多様な人を受け止めていけるかがカギとなる気が致します。(50代男性)

【無所属グループの自由意見】

■Lessons and learned。(40代男性)

■山仲間との交流や技量の向上のため山岳会に入りたいと思った事もありますが、休みが取りづらく、また気ままな性格なので続かないかなとあきらめており、ソロ山行がほとんどです。山岳会さんにはこれからも「山」のために頑張ってもらいたいです。(30代男性)

■団体や会独自の決まりやしきたりにこだわりすぎず、柔軟な山歩きをしてほしい(30人が通り過ぎるのを待たせるとか止めてほしい)。(50代女性)

■年功序列、昔からのやり方をずっと踏襲するような山岳会には絶対に入りたくない。入ったところで進歩が見込めない。(20代以下男性)

■山岳会に入られている方々の技術が不足しています。岩場での技術面を含めた安全管理やマナー不足を多々感じます。特に、ベテランと言われる方々は、安全管理が出来ていないケースが多く、フリーの岩場では、明らかな技術不足により事故を誘発する危険な状況を散見します(例えば、岩場での過度なトップロープや、トップロープでの落下予測等の安全管理の不備)。山岳会が法人格を持った組織であればこそ、組織としての安全管理を徹底して頂きたい。(40代男性)

■聞こえない人でも大丈夫なら入りたい。(40代女性)

■もっと参加しやすい講習会(ロープワークとか)があると助かります。(40代男性)

■聴覚障害者にも楽しめる山岳団体や会を作れるように頑張ってもらいたいです。(〇〇) (50代男性)

■山岳会に入らなくても受けられる、単発の講習会やフィールドワークなどがあれば、参加してみるのもアリかもしれません。その際は、レベルや年代、人数などを絞って、できるだけ安価な設定で募集してもらえると申し込みもしやすいと思います。(40代女性)

■初心者を含む大勢で岩場を占領して、周りに迷惑をかけるのをやめて欲しい。特にスポーツの岩場において、ルートをトップロープで長時間占領したり、スポーツの岩場でアブミの練習をしたりしないで欲しい。マルチピッチのルートでも山岳会、労山は特に目に余る事が多い。(30代男性)

■そもそもそういう会を設けること自体が、時代とそぐわない気がします。(30代男性)

■参加が月に1回くらいでよく、山岳会以外のメンバーと山行にいつでもよいのであれば参加してもよい。(50代男性)